

機器・試薬セミナー：10月5日（土）13：00～15：20

■機器・試薬セミナー（従来セッション） 第3会場（502）

座長：山崎 正晴（奈良県立医科大学）

：前田 育宏（大阪大学大学院）

□機器・試薬セミナー1：二次元コード付きチューブによる検体管理におけるヒューマンエラー低減施策のご提案

Measures to reduce human error risk of sample management by pre-barcode tube at a clinical lab.

演者：佐藤 雄二（サーモフィッシャーサイエンティフィック株式会社 ラボプロダクツ事業部 マーケティング部）

Yuji Sato (Marketing, Lab Products Division, Thermo Fisher Scientific K.K.)

人はミスを起こす存在であり、装置や機械は故障する存在であることは誰もが認識していることではあるが、医療機関の検体検査は検体を迅速かつ正確に処理することが求められている。人が起こすミスの対策にはさまざまなアプローチがあるが、作業工程自体をヒューマンエラーが起きにくい仕組みにすること、つまり各個人の経験値や力量に依存する部分を可能な限り減らし、システムとして処理できる仕組みを構築することが考えられる。

本セミナーでは、遺伝子関連・染色体検査に焦点を当て、検査に用いる検体の管理に、バーコードを利用し、付随する情報だけでなく保管場所や入庫履歴などの工程を追跡できる製品、仕組みを紹介する。

サーモフィッシャーサイエンティフィック株式会社

Thermo Fisher Scientific K.K.

□機器・試薬セミナー2：QC ワークフローを効率化する「インテリQコントロール」のご紹介

Introduce Bio-Rad IntelliQ Control to Streamline QC Workflow

演者：植村 康浩（バイオ・ラッド ラボラトリーズ株式会社 マーケティング部）

YASUHIRO UEMURA (Marketing, Bio-Rad Laboratories Co.,Ltd.)

2018年6月、バイオ・ラッドは、別容器に移し替えることなく、分析機器でそのまま測定可能なバーコード付きプラスチックチューブのマルチコントロール3製品を発売した。2019年2月には製品名を「インテリQコントロール」としてさらに5製品を追加し、現在は11製品をラインナップしている。インテリQコントロールは「QCをよりスマートに」をコンセプトにしたQCワークフローを効率化する画期的な製品で、容器を分析機器の測定ポジションにセットしてすぐに測定スタートする「ロードアンドゴー」が実現可能である。本セミナーでは、今夏頃に発売する新製品と合わせてインテリQコントロールの特長について紹介する。

バイオ・ラッド ラボラトリーズ株式会社

Bio-Rad Laboratories Co.,Ltd.

□機器・試薬セミナー3：ISO15189：2022に準拠したポイントオブケア検査の管理実現に向けて

～POCT 一元管理システムと次世代血糖測定器のご紹介～

How to comply with POCT requirement in ISO15189 : 2022
-Introduction of POCT data management system and next generation blood glucose meters-

演 者：多田 恵（ロシュ・ダイアグノスティックス株式会社 マーケティング本部
カスタマーパートナーチャプター）
Megumi Tada (Marketing Customer Partner Chapter, Roche
Diagnostics K.K.)

準備中

ロシュ・ダイアグノスティックス株式会社
Roche Diagnostics K.K.

□機器・試薬セミナー4：テクノメディカが提案する尿一般検査のオートメーション化
について

Full automation of urinalysis proposed by Techno Medica

演 者：大田 伸（株式会社テクノメディカ 研究開発本部 設計部）
Shin Ohta (R & D Department, Techno Medica Co., Ltd.)

株式会社テクノメディカが、他社に先駆け開発、販売してきた、全自動尿分取装置 UA・ROBO シリーズは、尿検査の前処理を自動化することによる業務の効率化、さらには検体取り違いの防止を目的としている。

現行モデルの UA・ROBO-2000RFID に加え、今回新たに小型尿検体分取装置 UA・ROBO-1 を開発した。UA・ROBO-1 では、機能のコンパクト化を図ることで卓上に設置可能なサイズとしている。

本機器・試薬セミナーでは、これら UA・ROBO シリーズの特徴ならびにその導入効果について紹介する。
株式会社テクノメディカ
Techno Medica Co., Ltd.

□機器・試薬セミナー5：カード用全自動輸血検査装置 IH-500 NEXT+IH-Central に
よる輸血検査の安全性向上と業務効率化

Improving Safety and Operational Efficiency of Blood
Transfusion Testing with IH-500 NEXT+IH-Central

演 者：関 正治（バイオ・ラッド ラボラトリーズ株式会社 カスタマーケア本部
診断薬カスタマーサポート部）

Masaharu Seki (Customer Support-Clinical Diagnostics, Customer
Care, Bio-Rad Laboratories Co.,Ltd.)

2024 年 4 月、「医師の働き方改革」の新制度が施行され、各医療施設においては医師と他の医療職種とのタスクシフト/シェア導入により医療業務環境の改善が図られている。輸血医療においても、質・安全性を確保すると同時に、タスクシフト/シェアを推進するため、全自動輸血検査装置の導入や輸血システムを含む IT 化等による効率化が求められている。本セミナーでは「IH-500* NEXT」(*一般医療機器 特定保守管理医療機器 設置管理医療機器 届出番号：13B3X00206000024) および輸血関連業務統合ソフトウェア製品群「IH-Central」が輸血検査の更なる安全性向上と業務効率化にどのように貢献できるか、詳細を紹介する。

バイオ・ラッド ラボラトリーズ株式会社
Bio-Rad Laboratories Co.,Ltd.

□機器・試薬セミナー6：ルミパルス® L2400 を用いた全自動前処理 TDM 測定試薬による測定精度向上および運用改善効果

Improvement of measurement precision and operational efficiency using fully automated pre-treatment TDM reagent with LUMIPULSE® L2400

演 者：曾我 健斗（富士レビオ株式会社 製品企画本部 試薬企画部 メディカルフェアーズ課）

Kento Soga (Medical Affairs Section , Reagent Planning Department , Product Planning Division , FUJIREBIO INC.)

血中濃度の管理が重要な免疫抑制剤のうち、全血検体を用いて測定するタクロリムス、シクロスポリンは、煩雑な前処理に起因する精度への影響、測定者の選定、夜間休日対応等の運用上の課題がある。

我々はこの課題の解決策として富士レビオ独自技術である iTACT 法と、低分子物質に対するサンドイッチ法を用いた。これらの技術により煩雑な前処理を自動化し、測定までのプロセスを大幅に簡略化することで、測定の信頼性と効率性の向上をソリューションとして提供可能な試薬を開発した。

本セミナーでは全血測定試薬であるルミパルスプレスト iTACT タクロリムス、ルミパルスプレスト iTACT シクロスポリンの試薬性能や運用改善効果について紹介する。

富士レビオ株式会社
FUJIREBIO INC.

□機器・試薬セミナー7：未定

演 者：未定

準備中

株式会社日立ハイテク
Hitachi High-Tech Corporation